

平成 31 年度(令和元年度)  
全国学力・学習状況調査結果

令和元年8月  
砂川市教育委員会

## 1 調査の目的

全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、砂川市における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することを通して、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に資する。

## 2 調査の名称：「平成31年度全国学力・学習状況調査」

## 3 参加状況：砂川市内小学校第6学年（5校：113名）・中学校第3学年（2校：125名）

## 4 調査事項及び手法

### （1）教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）

※今年度より、全ての教科において知識・活用を一体的に問う問題形式に変更された。

小学校（国語：14問、算数：14問）

中学校（国語：10問、数学：16問、英語（聞く・読む・書く）：21問）

※英語の「話すこと」の結果については参考値とし、英語の調査結果（集計）とは別。

### （2）質問紙調査

・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### （3）学校に対する調査

・学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

## 5 調査実施日

平成31年4月18日（木）

## 6 調査の実施体制

各学校の校長を調査責任者として、設置管理者である砂川市教育委員会の指示、指導、助言等に基づき実施する。なお、調査問題の発送、回収、調査結果の採点・集計は、文部科学省及び北海道教育委員会が民間機関に委託して実施する。

## 7 調査に関しての砂川市教育委員会の基本的な姿勢

砂川市教育委員会は、文部科学省が示す本調査の目的・意義に基づき、定められた方法に従い、市内全小・中学校で実施する。

（1）各学校では、児童生徒の学力・学習状況を把握し、授業改善に向けて調査結果の積極的な活用を図る。

（2）文部科学省は、実施要領の中で市町村教育委員会の判断のもと、個々の学校名を明らかにした数値等の公表を可能としたが、砂川市では、調査の結果により学校間の序列化や比較を行うものではなく、加えて教育委員会が個別の小・中学校の調査結果を一括公表するものではないと判断し、これまで同様、学力調査の平均正答率についての数値は公表せず、正確な数値が特定されないグラフや言葉による公表とする。

（3）この調査は、本市で実施している標準学力検査や、これまで各学校が教育課程に基づいて実施している各種テストなどと同様に、教育課程の一環として実施するものである。

（4）文部科学省の実施要領では、都道府県教育委員会が作成する報告書の中で、各市町村の同意を得て、各市町村単位の結果公表を可能としていることから、北海道教育委員会が作成する報告書の中での結果公表について同意することとする。

## 教科に関する調査結果

### 1 砂川市全体の平均正答率の示し方

全国・全道の平均正答率と比較し、本市全体の平均正答率を以下のように示す。

- ・上回っている（＋５％以上）
- ・やや上回っている（＋１％以上＋５％未満）
- ・同程度【上】（＋１％未満）
- ・同程度【下】（－１％未満）
- ・やや下回っている（－１％以上－５％未満）
- ・下回っている（－５％以上）

### 2 砂川市内小学校全体の結果

- 国語
  - ・全国の平均正答率（63.8％）をやや下回っている
  - ・全道の平均正答率（63％）をやや下回っている
- 算数
  - ・全国の平均正答率（66.6％）をやや下回っている
  - ・全道の平均正答率（64％）と同程度【下】

### 3 砂川市内中学校全体の結果

- 国語
  - ・全国の平均正答率（72.8％）をやや下回っている
  - ・全道の平均正答率（72％）をやや下回っている
- 数学
  - ・全国の平均正答率（59.8％）をやや下回っている
  - ・全道の平均正答率（58％）をやや下回っている
- 英語
  - ・全国の平均正答率（56.0％）をやや下回っている
  - ・全道の平均正答率（54％）をやや下回っている